

令和2年7月31日

於

府中市役所

令和2年度第1回

府中市総合教育会議 会議録

府中市政策総務部政策課

令和2年度第1回府中市総合教育会議 会議録

1 開 会 令和2年7月31日(金)

午後2時

閉 会 午後2時58分

2 出席者

市 長 高 野 律 雄(議長)

教育長 浅 沼 昭 夫

委 員 日 野 佳 昭

委 員 平 原 保

委 員 新 島 香

委 員 増 淵 達 夫

3 欠席委員

なし

4 出席説明員

文化スポーツ部長

関 根 滋

文化生涯学習課長補佐

楠 本 順 子

教育部長

赤 岩 直

教育部副参事(兼)指導室長

並 木 茂 男

教育総務課長

矢 々 崎 幸 夫

教育総務課長補佐

矢 島 彩 子

指導室主幹

目 黒 昌 大

統括指導主事

吉 田 周 平

統括指導主事

菅 原 尚 志

教育総務課総務係長

元 村 考 呂

5 事務局出席者

政策総務部長

石 橋 純 一

政策課長

大 井 孝 夫

政策課長補佐

吉 本 忠 幸

政策課主査

斎 藤 麻 美

## 6 議事内容

- (1) 協議題1 令和3年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針について
- (2) 協議題2 新型コロナウイルス感染拡大による子どもたちへの影響と本市の対応について

## 7 傍聴者の数

3名

## 8 発言内容

市長 それでは、只今より、令和2年度第1回府中市総合教育会議を開催させていただきます。教育長、教育委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただき、心より感謝申し上げます。また、日頃より、府中市の教育にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本日は、協議題1「令和3年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針について」、協議題2「新型コロナウイルス感染拡大による子どもたちへの影響と本市の対応について」の2件について、ご協議をお願いします。また、本日は、増淵委員が新たに教育委員に就任され、当会議に初めてご出席いただいております。後ほど議題に入る前に、自己紹介をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

---

### 傍聴許可

市長 なお、この会議は法律及び当会議の運営規程により公開が原則とされておりますが、傍聴を認めることとしてよろしいでしょうか。

教育長、教育委員 異議なし

市長 それでは、傍聴を認めます。

---

### 新教育委員の紹介

市長 それでは、協議題に入ります前に、4月1日付けで新たに教育委員に就任された増淵委員に自己紹介をお願いいたします。増淵委員、一言お願いいたします。

増淵委員 増淵でございます。私は、これまで都立高校の教員や東京都教育委員会の事務局職員として勤務してまいりました。今年から小学校で実施された新学習指導要領の基本的なスタンスは、変化が激しく予測困難なこれからの社会を生きる児童に対して、様々な課題に主体的・積極的に向き合い、多くの児童とともに、これらの課題を解決する能力を育成することであると理解しております。このことは、新型コロナウイルスという未知の課題に対して、正面から向き合い、多くの人と協力しながら解決しなければならないという、今まさに私たちが直面し、求められていることと共通するものであります。これまでの私自身の経験も生かしながら、府中市の教育の更なる充実のために全力を尽くしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

市長 ありがとうございます。この府中市総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、平成27年4月に設置したものです。皆様から活発なご意見をいただき、教育に関して市長部局と教育委員会の連携を更に深め、本市の教育行政を一層推進していきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

---

協議題1 令和3年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針について

市長 それでは、会議次第に沿って議事を進めてまいります。本日の協議題は、次第に記載の2件であります。

はじめに、協議題1「令和3年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針について」であります。

本市では、7月15日付で「令和3年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針」を策定いたしました。本方針に基づき、教育委員会におかれましても、来年度の施策展開についてご検討いただき、今後の予算編成に向けて方針等をご提示いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。それでは、資料1に基づき、1ページの前文を私から説明させていただきます。

令和3年度は、本市のまちづくりの指針である第6次府中市総合計画後期基本計画期間の最終年度を迎えます。後期基本計画期間においては、市民との更なる協働のもと、地域で支え合う仕組みづくりや、にぎわいの創出につながる新たな取組など、将来に向けたまちづくりを着実に進めてきました。

しかしながら、現在の市政を取り巻く状況は、市民の生活や経済活動に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症への対策、また、近年の豪雨による水害や大規模地震など自然災害への備え、さらには、東京2020オリンピック・パラリンピックの延期への対応など、早急に取り組むべき重大な課題が山積するとともに、市の施策展開にも大きな変化が求められています。

一方で、令和3年度一般会計予算は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による景気の落ち込みの影響により、市税等の一般財源が減少する中において、生活保護費などの社会保障経費の増加に対応し、さらに、公共施設の老朽化対策を継続する必要があることから、極めて厳しい予算編成となることを見込まれています。

このことから、令和3年度は、これまで培ってきた経験を生かした市政運営を継続しつつも、自然災害や感染症の脅威といったこれまでに経験したことのない困難な状況に、組織としての強い力と創意工夫による柔軟な思考により、ONE TEAMの精神で立ち向かうとともに、第6次府中市総合計画後期基本計画における重点プロジェクトを含む全ての施策について、「めざす姿」の実現に向けた総仕上げをした上で、新たな未来を描く次期総合計画の着実なスタートにつなげるため、次の視点で市政運営及び予算編成に取り組むこととします。以下、詳細につきましては、政策総務部長から説明いたします。

政策総務部長 それでは、「基本方針」の内容につきまして、ご説明いたします。1の「市政運営について」では、留意する事項を7項目掲げております。恐れ入りますが、全文の読み上げは割愛させていただきますので、後ほどご確認ください。

はじめに、(1)として、第6次総合計画後期基本計画の重点プロジェクトに位置付けている事業や取組については、計画の完遂に必要な事業の展開を図るとともに、各施策については、進捗状況やこれまでの取組内容を点検・評価し、「めざす姿」の実現に向けてラストスパートをかけることとしています。(2)は新型コロナウイルス感染症への対応について、職員一人ひとりが様々な角度でアイデアを創出し、新たな視点を用いた事業展開を図るとともに、新しい生活様式の定着を推進するための取組や非常時に備えるための施策展開を図ることとしています。

2ページの(3)は、想定される将来的な課題への対応について、果たすべき役割や責任を明確にし、10年後、20年後の未来を見据えて、中心市街地の活性化、にぎわいの創出など、活力と生きがいを感じる魅力あふれるまちづくりを目指した施策展開を図ること。(4)は、行財政改革推進プランの着実な実行と、事業の適切な評価及び改善を強く意識した実効性のあるPDCAサイクルの確立について示し、さらに(5)として、頻発する自然災害に備える力の強化や、地域における更なるつながりや支え合いの仕組みづくり、また、協働のまちの実現に向けた取組について示しております。また、(6)として、延期となった東京2020オリンピック・パラリンピックへの対応について、(7)として、事業の統合やスクラップも視野に入れた既存事業の十分な精査と効果的な手法の検討について示しております。

以上が、市政運営についてでございます。2の「予算編成について」は、事業提案に当たっての財源確保の必要性や、財源創出への努力、さらには、投資的経費については、優先順位を設定した上で予算編成を行うことなどを記載しております。

説明は以上ですが、この方針に基づき、各部では、10月に開催予定の政策会議での提案に向けて、既存事業の評価及び見直しを行っていただいた上で、来年度の部の運営方針を作成し、新たな事業展開について検討を進めていただきます。政策会議では、部の運営方針をご説明いただき、課題を共有するとともに、来年度の方向性について確認をする場とし、来年度の予算編成へと繋げてまいります。

市長 説明が終わりました。それでは、教育委員の皆さんから来年度の市政運営や予算編成に向けて、ご意見などございましたらお願いいたします。

日野委員 今、最も緊急性のある施策は、新型コロナウイルス感染症の対策です。歳入が減少する中、緊急に対応しなければいけない施策が多く、重点プロジェクトさえにも優先順位をつけるとともに、廃止・休止・先送りを含めた大胆な予算編成が必要と考えます。また、医療現場では、介護職員や教職員などのPCR検査希望に対して、答えることができず苦慮しています。発熱時には、比較的長期の休職が必要であり、介護や授業に大きく影響します。PCR検査は理想的には希望する方すべてに検査することですが、政府の方針ではできません。7月22日現在、医師会には多摩総合医療センターと保健所からPCR検査の依頼が来

ております。さらに保健所からは市民から電話相談の依頼も来ており、それぞれ業務が逼迫していると想像します。また、これは来年度を待たずをお願いしたいことですが、府中市として独自にPCR検査センターを増設することを希望したいと思いますが、そのためには、場所の確保と予算措置等が必要です。教育予算に関しても、例えば小中学校の改築計画を延期するなど、視野に入れていかなければいけないと考えております。

市長 ありがとうございます。感染症の拡大については、非常に厳しい状況にあると思っております。インターネットニュースによりますと、本日の東京都内の新規感染者数は、これまで最多の400人を超える数だそうです。市民の皆さんの不安の声も、日ごとに増していると思っております。また、府中市医師会では、小金井市、国分寺市、国立市の各医師会と共同で、都立多摩総合医療センター内にPCR検査センターを設置していただいております、5月下旬から600件以上の検査をしていると聞いていますが、更なる検査体制の充実を望む声が多く寄せられています。一方で、先ほど基本方針でご説明したとおり、財政的にはこれから大変厳しい状況になるのではないかとということで、日野委員からは、しっかりと削減をしながら必要なところに予算措置をするようにとのことですので、これまで続けてきました行財政改革の取組はもちろんのこと、大胆な事業スクラップなども施しながら、しっかりとした財政運営をしていきたいと思っております。なお、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、また、様々な影響を最小限に抑えるために、現在、新たな基金を創設することも視野に入れておりますので、総合的な財政運営を行い、安心して誰もが住み続けられるようなまちづくりを進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

増淵委員 令和3年度の市政運営におきましても、新型コロナウイルス感染拡大防止等の取組は求められるものと想定する必要があると思っております。人と人との直接的な接触を可能な限り回避しながら、コミュニケーション手段を確保するためには、コンピュータやインターネットなどを活用できる人と、そうでない人との様々な格差(デジタルデバインド)を解消するためのハード面、ソフト面の施策が必要であると考えています。このことによって、ポストコロナにおいても高齢者の社会参加、防災情報の迅速かつ確実な周知等、市政が直面する課題の解決にもつながるのではないかと考えます。また、市内の公立学校に在籍する全ての児童・生徒が、自在にICTを活用できるようにすることで、その成果を家庭や地域に還元・貢献し、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という新学習指導要領の前文に掲げられている「社会に開かれた教育課程」の理念の具現化も期待したいと考えております。

市長 ありがとうございます。デジタルデバインドについては、まさにこれからのポストコロナの時代において、社会参加をするための大きな課題であると思っております。新しい生活様式などという言葉も使われておりますが、人と人とのコミュニケーション手段が多様化することは必然であると思っておりますので、学校現場の教育活動はもとより、社会全体のコミュニケーション、人と人のつながりをしっかりと確保して、孤立化をしないようにまちづくりを進めていくためにも、多様な手段を考えていきたいと思っております。

新島委員 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、緊急事態宣言が発出され、2か月に及び自粛生活をしてきた中で、これまで当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなり、変える必要も変えることも難しいと考えられてきたことが様々変化しました。在宅勤務やオンライン授業、会食・外食をせず自宅での食事など、ソーシャルディスタンスを保ちながら、新しい生活様式へ、当たり前で心地良かったことやものを変えることは、苦労も多く前向きに取り組むことはなかなか大変なことですが、これまでの行政の中で、本当に必要なこと・実際に効果があるものなど、見直しができるチャンスでもあるのかと思います。是非、市民の声を聞きながら新しい時代へ向けての市政運営及び予算編成をご検討いただければと思います。

また、教育予算については、特に教室数が不足している学校については、密になってしまっただけでなく、少人数学習などができず、他校との差も生まれてきてしまいます。できるだけ早い増築・改築等が必要です。また、今回長期休校となり、オンラインでの自宅学習環境整備も重要かと思えます。全ては子どもたちという未来への投資ですので、より良い方向へのご検討いただき、善処いただければと切に願います。

市長 ありがとうございます。本当に、これまで当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなったということは、誰もが実感していることだと思います。しかしながら、新島委員ご指摘のように、これまで、ややもすれば無理していたことや無駄であったことなどが見つかったかもしれないと思うと、教育行政もそうですが、大切なことはこれまで通りに継続しつつ、求められる変化にはしっかりと対応しなければいけないと思っています。特に、学校関連予算については、既に新しい指導要領に則った当初予算を組んでおりますが、これから議会に提示する9月補正予算についても、30数億円の総額うち、約3分の1を教育費に充当する予定でおりますので、今後もきめ細かく対応していく姿をお見せしながら、更なる充実につなげていきたいと思えます。

平原委員 新型コロナウイルス感染症への対策並びに水害や大規模地震などの自然災害への備えが、市民の安全・安心を守る喫緊の重要課題になっています。令和3年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針において、私は教育に関連して、2点について申し上げます。

1点目は、市政運営の(2)新型コロナ対応に記載されているように、市民の命を守ることを最優先しながら、市民が一丸となって対策を講じることが重要だと考えます。その際に、子どもへの影響を配慮して、まずは大人同士が偏見や差別を生まないよう、人権に配慮した対応を進めることをお願いいたします。

2点目は、市政運営の(3)自然災害に備える力の強化、安全・安心のまちづくりについて、人々のつながりや支え合いが欠かせないことだと考えています。しかし、新型コロナウイルス感染防止のために、各種イベントや交流活動、地域行事などが中止・自粛せざるをえない状況にあります。こうした状況が長引くことで、人々のつながりや支え合いが弱まるのが懸念されます。そこで、例えば「ご自宅付近で、通学路の見守り」「近隣の公園や歩道の美

化活動」など、3密を避けて安全・安心のまちづくりにつながる何らかの取組を模索・推奨していただきたいと思います。

市長 ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の拡大は、とても心配なことであり、命を守るために、皆さんに自主的に自衛の活動をしていただくこと、さらには、3密を避けるために市としてできること、東京都や国と連携してできることはもちろん、どうしても偏見・差別が起こってしまっているという情報も耳にしていますので、この点は十分に配慮して、市政運営をしなければならないと思っております。本年度の予算編成時には、新型コロナウイルスの影響によって東京2020オリンピック・パラリンピックの延期を想定していませんでしたので、世界の皆さんとたくさんの感動を共有することで、「平和と人権」についてしっかり考える年にしたいとの思いから、市政運営のテーマの1つに「世界とつながる 平和と人権」を掲げました。残念ながら、東京2020大会は延期になってしまいましたが、市政運営のテーマは継続していますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

また、自然災害についてのご心配もごもっともであり、昨年の中日本台風によって、府中市も大きな影響を受けました。今週は、「市長と語る会」を開催しており、多摩川の沿岸地域の自主防災連絡会の皆さんと、水害への備えや避難のあり方などについて、意見交換を行っております。その中でも、防災、水害のことを地域で考えることが、つながりを作ることになるとの声をいただいております。平原委員のおっしゃるとおり、声のかけ合いをできるような地域づくりを進めることが、子どもたちへの教育や福祉、環境、安全なまちづくりにもつながると思っております。

教育長 近年の教育改革等による子どもたちを取り巻く状況からお話申し上げます。今年度から小学校に新しい学習指導要領が導入され、来年度からは中学校でも全面実施となります。その理念である「主体的、対話的で、深い学び」を実現するためには、各学校が絶えず教育内容や方法を改善する授業改善やカリキュラム・マネジメントを通して、教育の目的を社会と共有する「社会に開かれた教育課程」を実施することが求められております。そのためにも、各学校の主体性を尊重しながら、教育委員会が全力で支援してまいりたいと思っております。また、猛威を振っている新型コロナウイルス感染症への対策や「新しい生活様式」を踏まえた教育活動が求められており、子どもたちへの教育に対して新たな局面を迎えています。

こうした中、ICT環境においては、全ての小学校に配置しました大型提示装置やタブレットパソコンは、いずれの学校においても活用状況は良好であり、目指す授業改善には不可欠であるため、引き続き、中学校に整備するとともに、GIGAスクール構想の実現に向けて、新型コロナウイルス感染症の長期化に備えた対策を講じてまいりたいと考えております。また、情緒障害等に伴う学習上・生活上の困難さを改善するため、これまで実施していた通級による特別な指導を在籍校にて実施できるようにする特別支援教室を全ての中学校に設置しております。これにより、小中学校33校全ての学校に設置したことになります。

こうした状況を捉え、今回お示しいただいた基本方針を踏まえながら、今後も教育委員会として、良好な教育環境、教育条件の確保とカリキュラム・マネジメントを通して、子どもたちの教育の充実を図ってまいりたいと考えております。

市長 ありがとうございます。協議題1「令和3年度の市政運営及び予算編成に関する基本方針」について、皆様方からご意見をいただき、協議をさせていただきました。令和3年度は、これまでにない難しい予算編成になるだろうと思います。その中でも新型コロナウイルス感染症をこれ以上拡大させないで、健康に安全に過ごすための事業、また、今月は非常に多くの自然災害が各地で起こっていましたが、自然災害に備える力を強化するという大きな課題に加えて、これまで心配をしてきた人口構造の変化への対応など、将来へ備えるまちづくりを着実に進め、第6次総合計画からその先の総合計画へつなげる大事な年度でございますので、今後も皆様方には様々なかたちでご意見・ご指導をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

---

#### 協議題2 新型コロナウイルス感染拡大による子どもたちへの影響と本市の対応について

市長 続きまして、協議題2「新型コロナウイルス感染拡大による子どもたちへの影響と本市の対応について」であります。協議題1でも、皆様から新型コロナウイルスに関連した様々なご意見をいただきましたが、いまだ終わりの見えない、この新型コロナウイルスとの闘いは、学校生活や教育活動、さらには、子どもたちの精神面や健康面にも、多大なる影響を及ぼしていることと思っております。

そのような中、教育委員会におかれましては、5月25日に「緊急事態宣言に伴う臨時休業解除後の教育方針」が策定されておりますが、改めて、子どもたちへの影響と本市のこれまでの取組などについて、意見交換をお願いできればと思っております。はじめに、教育部長より説明をお願いいたします。

**教育部長** 本市では、国や都の要請を受け、3月2日から市立学校を臨時休業とし、今年度につきましても、国の緊急事態宣言及び都の緊急事態措置の発出に伴い、4月6日から5月31日までを臨時休業としてまいりました。この臨時休業期間中、各学校では学校メールや学校ホームページを活用し、児童・生徒及び保護者への連絡を行うとともに、5月7日からは、個別の課題配布・提出日を設定し、家庭における児童・生徒の学習面及び生活面の支援を行いました。また、児童・生徒の状況を確認するため、個別の課題配布・提出日に登校した機会や、電話連絡、家庭訪問などを行い、児童・生徒の状況を把握するようにいたしました。

緊急事態宣言解除後、6月1日からの学校再開に当たっては、新型コロナウイルス感染症を考慮し、分散登校から始め、段階的に登校時間を増やししながら、6月15日より給食を再開し、通常登校を実施しております。なお、通常登校と申しましたが、全てが臨時休業前の状態に戻ったわけではなく、各学校においては、「府中市立学校 感染症予防の手引き」に基づき、「3つの密」の徹底した回避や、手洗いの励行、咳エチケットの徹底、1日1回以

上の教職員による消毒作業など、感染症予防策の徹底に努めているところです。これらの感染予防の取組を進めておりましたが、先日、学校の事務支援員1名が、学校外での感染によりPCR検査の結果陽性との診断を受けましたが、幸いなことに、児童・生徒、また、教員の感染はございませんでした。以上です。

市長 説明が終わりました。それでは、皆様からご意見をお願いいたします。

増淵委員 教育部長から説明があったように、教育委員会では、ホームページに臨時休業中の学習や生活についての基本的な留意事項を示し、各学校は可能な限りの対策を実施してきたと思っています。その結果、保護者等からは、教育委員会や学校の対応は概ね理解されているものと考えています。

しかし、3月以降の長期にわたる臨時休業が、児童・生徒の学力や体力、道徳性や社会性等の計画的でバランスの良い育成、情緒の安定などに深刻な影響を与えている可能性は否定できないと考えます。また、教員は、課題学習とその採点等に加え、通常授業再開による教室や教材等の消毒作業を担っており、その負担は看過できず、教育課程の適正な実施に重大な影響が及んでいる現在、教員が児童・生徒への教科指導・生活指導、及び、今後想定される感染拡大への対応準備に専念できるよう環境整備を行うことが喫緊の課題であると考えています。

具体的には、機器の整備に加えて、引き続き、市内の企業等との連携を図り、ICT支援のための人的支援を確保した上で、ICT環境の一層の充実を図ることにより、学校が全ての児童・生徒とオンライン上でのコミュニケーション手段を確保すること、教室等の消毒作業から教員を解放すること、などが必要であると考えています。ICT環境の整備は、学習指導だけでなく、保護者や児童・生徒とのWeb面談、欠席しがちの児童・生徒とのコミュニケーションの確保など、生徒指導・進路指導の充実にもつながるものと考えています。

市長 ありがとうございます。臨時休校の間、各学校の先生方にはいろいろと工夫をして子どもたちの育ちを見守っていただきましたが、距離があることによって様々課題があることも事実であり、この課題を解決するためにICT環境を更に充実させていくことは、不可欠な事であると思います。先ほども少し申しあげましたが、9月に行われる市議会において、補正予算としてタブレット端末の1人1台整備に向けて、校内ネットワークや機器の整備に係る費用を計上し、小学校・中学校ともにしっかりと対応を取ることにしております。そして、しっかりと環境を整備することによって、先ほど増淵委員からご意見いただきましたように、欠席しがちの児童・生徒とも今以上に円滑なコミュニケーションが図れるよう、新たなツールとして活用されることが期待されます。今後は、新型コロナウイルスと共存・共生していくことが想定されますので、環境を整備して、生徒指導、進路指導を含めた教育活動の充実に努めてまいりたいと思います。

日野委員 保育園、幼稚園、学校が再開され、発熱症状の患者さんが増加してきています。児童生徒では、さらに不定愁訴を訴え、不登校となり病院を受診する例が多い印象です。新型コロナウイルス感染に伴い長期自宅生活後、生活のリズムが乱れ、学校生活に適應できな

いようです。また、夏に向かい熱中症も心配されます。新型コロナウイルス感染症と、「新しい生活様式」に伴い、精神的、肉体的ストレスなども認められます。学校、家庭内でのきめ細やかな支えが必要です。もともと、不登校の傾向のある生徒は、学校生活への対応がなかなか困難な様子です。今後、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症により学級閉鎖も考えられ、ますます、授業時間が不足すると予想されます。教育を確保するため、ICT等各種の方策を考えていかななくてはなりません。

また、本市の学校現場では、感染対策について、試行錯誤を重ねて取り組んでいただいております。「新しい生活様式」を踏まえた教育活動を実施するなかで、感染予防の徹底も必要で、教職員の過労も心配です。

今のところ、東京の小児感染例は、ほとんどが家族内感染例で、重症例はいません。小児から、高齢者や基礎疾患があり重症化リスクの高い方への感染予防が重要であるため、高齢者施設等への人的、金銭的、物的な援助も必要と考えます。今後、学校内での感染の予防以外に、家族に新型コロナウイルス感染症の疑いのある方がいた場合、さらに教職員等に感染者が発生した場合、集団感染が起きた場合などの対応を、教育委員会としても考えていかなければならないと思います。

市長 ありがとうございます。4月、5月の感染状況と、7月に感染者が増えた状況とを比較すると、4月、5月も市内感染者は多い状況にありましたが、医療関係、介護関係、研修関係の施設等で集団的に感染をしたという例が多くあり、そのことが全体の感染者数の増につながっていたと保健所からの報告を分析すると思えます。しかしながら、7月は、いわゆる経路不明者が多く、また、職場や繁華街での感染に伴って家庭内でも感染することが目立ってきました。従って、日野委員がお話されたように、ご両親が職場などで感染して家庭へ持ち帰り、気づかない間に子どもたちへ感染するということは当然考えられ、子どもたちの感染が判明した時のリスクマネジメントについては既にマニュアルも整備していると思えますが、時間を置かずに対応をとることが大切であるため、教育委員の皆様にご指導いただきながら、教育委員会事務局、そして市長部局でもしっかりとした対応がとれるように伝えていきたいと思えます。

平原委員 新型コロナウイルス感染症については、予断を許さない状況にありますが、先日、教育委員会訪問をした2校(小学校と中学校)から捉えたことをもとに、意見を述べます。

はじめに、子どもたちへの影響として、長期臨時休校では、ステイホーム、運動不足など、心身に大きな影響を及ぼしていると推察されます。

第一に、体力低下です。「学校再開後の子どもたちの体力が落ちている」と、校長先生からの報告がありました。また、子どもたちは暑さにも慣れていませんし、マスク着用が常となっています。今年は8月上旬まで登校となり、例年以上に熱中症への備えと配慮が必要になります。

第二に、心身のストレス反応です。小学1年生が、七夕かざりの短冊に「ころながなくなり、みんなでげんきにあそびたい」と、習いたてのひらがなで願いごとが書いてありました。長期にわたる様々な制約により、子どもたちには相当のストレスがかかっています。行動の変化、例えば集中力の低下や乱暴な言動等や、身体のストレス反応（腹痛、頭痛）など、小さな変化やSOS信号を敏感に捉えて対応していくことが求められます。また、子どもの不安や焦りが、いじめや偏見、差別などに繋がらないように配慮することが重要です。

府中市の取組として、教育委員会では基本方針「学びの保障」「心のケアと人権教育」「感染対策の徹底と感染予防」を示しています。この基本方針に即して、市内全校において共通する取組を徹底するとともに、学校や児童生徒の発達段階に応じた対応が重要課題です。訪問校においても、手洗いうがいの励行、アルコール消毒、検温の実施と発熱者へ対応、細心の注意を払った上での給食指導、放課後の消毒作業等々、入念な対策をとっている現状を目の当たりにしました。その中に、子どもたちが真剣に学ぶ姿がありました。コロナ対策と学びの保障の両立の難しさに直面しながらも、校長先生をはじめ教職員が一丸となって取り組んでいます。しかし、先行きの見えないコロナ感染状況にあって、学校の自助努力だけでは、限界があります。そこで、3点について、提起したいと思います。

1点目です。長期対応に備えて、感染対策に必要な消耗品や関係備品を十分に確保していく。併せて、校長判断で必要な取組を迅速かつ柔軟に実施するための経費支援が必要です。

2点目として、学びの保障については、およそ3か月間の臨時休業の影響は大です。これからの臨時休業措置にも備え、学校と家庭をつなぐICTの学習環境を整備することを緊急課題として取り組んでいただきたいと思います。

最後に3点目として、非常時（緊急事態時）には、教育委員会と学校または校長、校長と全職員が情報伝達や情報共有ができるオンラインでのテレビ会議ができるようにしていただくとありがたいと思っています。

市長 ありがとうございます。私も先日、第二小学校と第五中学校を訪問させていただきました。学習の様子、そして、給食の準備などを少し見させていただきました。教室に短冊が掲示してあるのを私も見、「コロナが早くなくなれ」という短冊をいくつも目にして、この状況が子どもたちの心に重くのしかかっているんだな、と感じたところです。そこで、1点目の備品整備につきましては、今年度の9月補正予算において、備品の整備費用をしっかりと計上していきますし、市内のボランティア団体等から寄付の申出もいただいているところでもありますので、学校の規模に合わせて整備を進めてまいります。それからICT学習環境の整備につきましては、先ほどの協議でもお話をさせていただきましたが、小学校・中学校ともに、子どもたちの学習時間が確保できるような整備を急いで行っていくつもりであります。当初、来年度当初予算での計上も視野に入れていましたが、この9月補正で予算を組むことによって、他の自治体に遅れることなく整備を進めるため、予算措置を行うことにしました。また、非常時に、オンライン会議ができるような環境整備が必要だご指摘をいた

だきましたが、まさにそのとおりだと思いますので、いろいろな方法を早急に考えて進めていきたいと思います。

新島委員 長期間の休校から学校再開後も体を動かしたりお友達とおしゃべりや遊んだりといった楽しいこともできず、学習の遅れについての不安や、感染症への恐怖心など、当たり前だったことができなくなっただけでなく、大きな不安やストレスがかかる生活を送ることになりました。大人でも辛く苦しいところ、小さな体と心にどれほどの不安やストレスを抱えていることかと心配に思われている保護者も多くいらっしゃると思います。また、経済的に大きな影響を受けたり、医療従事者として苦勞されているご家族がいらっしゃるなど、大変な状況を抱えているご家庭もあるかと思えます。子どもたちの不安を増長せず、また軽率な行動につながることもないよう、近くにいる大人が連携し心配りや目配りなど、注意深く見ていかなければならないと思います。

そして、学校では教職員が感染症拡大防止に最大限の注意を払いながら、子どもたちの様子を注意深く見つつ、遅れを取り戻すべく授業を進め、さらには校舎内の消毒等これまでになかった作業も増え、いつ起きるか分からない第2波第3波に備え様々な対策や検討をしており、強い緊張感の中、使命感を持って対応してくださっておりますが、疲弊してしまうのではないかととても心配です。

児童・生徒数の増加により、教室数に余裕のない学校では、常に密な状態となってしまうことが心配です。幸い全小中学校の普通教室にはエアコンが設置されておりますので、窓を開け換気をしながらも冷房の効いた教室で授業に集中できるのは、これまでの設備投資が生き、とても良かったと思います。

また、この10年ほどで新築・増築された校舎などは、トイレや水回りなどの水栓器が自動であったり、室内灯もセンサーライトでスイッチを触ることもなく、感染防止には大変効果があり、今後新築・改築・増築等の際は、積極的にこのような設備を整えていけると良いと思います。また、これまでに、トイレの洋式化も進めてきましたが、自動洗浄や蓋がセンサーで自動開閉するものなど、予算が許されるなら、衛生的で便利な器具を採用していければと思いますし、このほかにも、各校で困っていることや必要な物など違いがあると思いますので、限られた学校予算を各校必要なことに柔軟に有効活用できるような対応をお願いしたいと思います。

また、行事や課外活動などの大部分が中止となり、学校だからこそ学べることや体験できること、またクラスメイトと作り上げる絆や思い出など、どうにか何かできないかと、校長・副校長をはじめ、教職員の皆様が一番考えていることではないかと思えます。状況が許されるなら、感染症拡大防止に最大限努めながら、学校としての役割を果たせるよう柔軟に活動して欲しいと願うとともに、教育委員会として最大限のサポートができればよいと思っております。そして、子どもたちが学校生活の中で、学力だけでなく自他を大切にする心や、自己肯定感・自己有用感などを得て、何が起きるか分からない未来を自ら乗り越えていけるたくましい大人へと成長していったらいいと思っております。

市長 ありがとうございます。学校の校舎、教育環境すべての充実については、これまでもしっかりと行ってまいりまして、教室のエアコン設置のみならず、小学校では昨年度全ての体育館にエアコンを設置し、中学校も今年度と来年度で全て整備されることとなりますので、これを十分に活用しながら、感染リスクの少ない環境を確保することは当然のことです。これに加えて、ご指摘いただいたような水道の蛇口などについても対応は必要であり、繰り返しになりますが、9月の補正予算においては、手回し蛇口の一部をセンサーに変える予算の措置もしております。今後とも、学校の改築なども含め、現在進めている学習環境の充実、再整備については、遅滞なく進めていくつもりでありますので、ご指導頂きたいと思います。また、行事や課外活動などについては、その大部分が中止になり、子どもたちが期待していたことが次々とむしり取られていくような、そんな感情もあるかもしれません。そこで、現在、中学校三年生あるいは小学校六年生である児童・生徒にとっては、最終学年に行う様々な活動についていろいろと不安を持ち、また、先生方もなんとかしてあげたいという思いは一緒なのではないかと思っています。無理をすることはできませんが、子どもたちの心が十分に満たされるような、しっかりとした考えを持ち合って協議し、代替案なども丁寧に説明しながら、教育委員会、教育委員会事務局、そして、市長部局一体となって進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

教育長 緊急事態宣言解除後、市立学校におきまして通常登校が始まり、約1か月半が過ぎました。その間、小中学校を訪問し、子どもたちの様子を見ているわけですが、皆さんご指摘のように、先生方の献身的な取組によりまして、子どもたちも学校生活に慣れ、「新しい生活様式」の中ですが、子どもたちのいる学校本来の姿を取り戻しつつあります。長期にわたる臨時休業の後、学校再開に当たりましては、子どもたちの学びをどう保障するか、児童・生徒の心のケアをどのように行うか、学校再開後の感染予防にどのように努めるか、この3点が大きな課題であると考え、冒頭、市長の話にもございましたが、教育委員会においては、5月25日に「緊急事態宣言に伴う臨時休業解除後の教育方針」を策定いたしました。この教育方針の中で掲げている「三つの基本方針」を、改めて読み上げさせていただきます。

1 子どもたちの学びを最大限に保障する。あらゆる手段で、子どもたち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障するという観点に立って、教育活動を推進する。

2 子どもたちの心のケアを進めるとともに、豊かな心を育む。児童・生徒の心理的なストレスに適切に対応するとともに、他人を思いやる心や、人権を尊重する心など、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育む。

3 学校内外における感染対策を徹底し、感染予防に努める。「新しい生活様式」を踏まえた教育活動を実施することで、感染予防を徹底し、子どもたちの健康の維持と、新たな生活習慣の確立につなげる。

この「三つの基本方針」に基づきまして、府中市教育委員会では、夏休みをはじめとする長期休業期間の短縮、土曜日の活用、学校行事の重点化や準備時間の縮減等によりまして、授業時数の確保に努めるとともに、今後の感染状況によって想定される再度の臨時休業や分

散登校に備え、ＣＴ環境の整備を進めるなど、様々な教育活動や施策に取り組んできております。

新型コロナウイルス感染症につきましては、緊急事態宣言下における自粛等により、感染状況が一旦は落ち着いたように思われましたが、先ほどお話がありましたように、東京都を中心に、再び全国的に感染者数が増えている状況でございます。府中市教育委員会といたしましては、「緊急事態宣言に伴う臨時休業解除後の教育方針」のもと、子どもたちの生命や身体の安全を第一に優先しながら、学校として、教育委員会として、府中市の子どもたちに対して何ができるか、このことを常に考えながら教育活動を進め、子どもたち一人ひとりの可能性を伸ばしていきたいと考えています。そして、これは願いではありますが、世界が新型コロナウイルスによる危機的状況から抜け出したのち、子どもたちが今の状況を振り返った時に、悲観的・非情的になることなく、「あの大変な状況の中、自分たちはよくやった」、「あの状況を乗り越えたのだから、この先、どんな状況があっても乗り越えられる」と、今の状況を糧として、将来の変化を予測することが困難時代と言われるこれからの社会に対し、受け身ではなく、主体的に向き合い、関わっていける子どもたちを育ててまいりたいと考えております。この教育に対する思いは、コロナ禍と言われる逆境だからこそ、ますます強くなっております。市長並びに教育委員の皆様、引き続き、御協力のほど、よろしく願いいたします。

市長 ありがとうございます。逆境だからこそ、この状況を糧として、しっかりと前を向いて進んでまいりたいと、教育長のお話を聞いて改めて思いました。どうもありがとうございました。まだまだ先が見えない困難な状況ではありますが、引き続き、教育委員の皆様のご協力をいただきながら、必要な対応、対策をしっかりと行っていきたいと思っております。

協議題2「新型コロナウイルス感染拡大による子どもたちへの影響と本市の対応について」は、以上とさせていただきます。

---

市長 それでは、以上で本日の協議事項は全て終了とさせていただきます。最後に事務局から連絡がありましたらお願いいたします。

事務局 事務局から次回の総合教育会議の予定につきまして、ご案内いたします。次回開催につきましては、11月頃を予定しておりますが、日程の詳細につきましては、後日改めてご連絡をいたします。

市長 本日の開催につきましては、大変ご多忙のところお時間をいただきまして、また、熱心にご協議をいただきまして、ありがとうございます。以上をもちまして、令和2年度第1回府中市総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上